



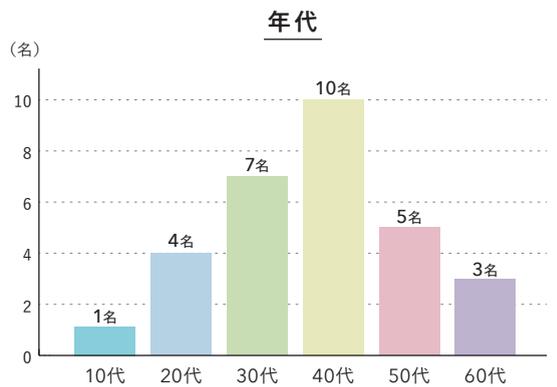
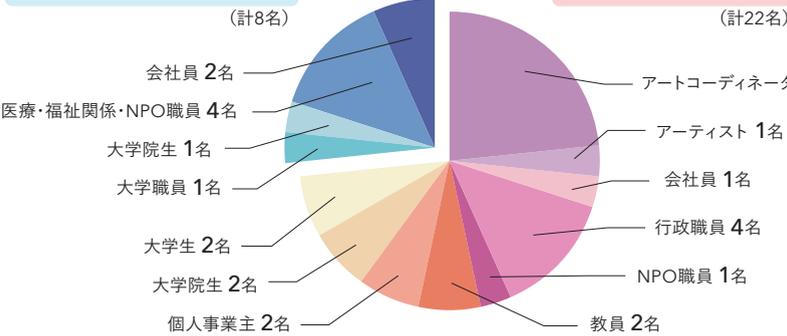
主催:大阪公立大学
学内協力機関:大学院都市経営研究科/大学院文学研究科/都市科学
防災研究センター/人権問題研究センター
共催:大阪市/公益財団法人公害地域再生センター/あおぞら財団/
NPO法人こえとこぼとこ(コルム)/一般社団
法人こまっぷ/NPO法人トッカビ
協力:大阪アーツカウンシル
助成:令和6年度文化庁 大学における文化芸術推進事業

Equity(公正) & Justice(正義)を軸にした
ソーシャルアートコーディネーターの人材育成

育成対象者 受講生 計30名(昨年度からの継続受講:8名)

ソーシャルワーク・グループ
主にソーシャルワークを生業にする
(計8名)

アート・グループ
主にアートを生業・研究する
(計22名)



人材が必要な背景

本事業は、Equity(公正) & Justice(正義)やAOPを軸に、大阪の社会的課題の克服・解決をめざすアート・コーディネーター等の人材育成を目的とします。Equity & Justice(略称EJ)は、社会的・人種的不平等が芸術文化の価値に関わる議論でも重要視されるなか、Diversity(多様性)や社会包摂(Inclusion)の文脈で使われる事が多くなっています。
一方、大阪・関西では、環境問題(公害など)、日雇い労働者の貧困と孤立、LGBTQや在日・移民の差別など大都市・大阪固有の深刻な社会的課題に対応するアートNPOなどの蓄積が顕著ですが、次世代育成、ネットワーク形成に課題がありました。
大阪公立大学は、社会人大学院・都市経営研究科設置し、アート、ソーシャル

ワーク系の教員が教鞭をとり、社会人アートマネージャー、ソーシャルワーカーなどが学生として多く在籍しています。大阪府市のシンクタンクとして行政とも協働してきました。リカレント教育のノウハウとネットワークを活用しながら、行政とも接続して厚い人材を育成を行います。

ソーシャルアートとは?

誰もが社会的排除に晒されない環境づくりに向け、表現行為・活動を通して、公正と正義が保たれる社会の実現をめざす芸術活動

AOPとは?

Anti-Oppressive Practiceの略で、日本語では反抑圧の実践と訳され、ソーシャルワークの文脈で発展してきました。誰もが当事者であることを前提として社会の抑圧構造に目を向け、様々な立場の人とともに、社会資源を活用し、互いの豊かさや課題を共有しあいながらJustice(正義)の実現を目指します。

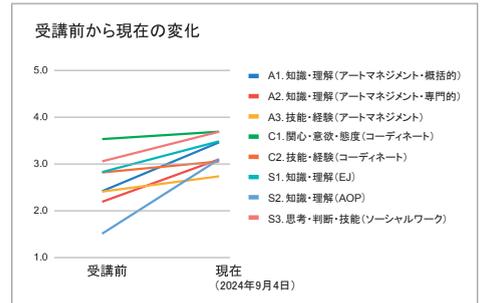
目指す人材像 アートを媒介に公正と正義に取り組む人材を育成

2024年度は、参加型評価の手法を用い、アンケート等による定性評価を実施するほか、ルーブリックによる定性評価の尺度化を実施。

自分の現在地と目的地を確認するための「EJ ART」ルーブリック ver 1.0 (2024.08.28)

Table with 5 columns (レベル1 to レベル5) and 5 rows (アートマネジメント, コーディネーター, EJ, SOA, SOA) detailing learning objectives and progress indicators.

Table showing progress from '受講前' (Before) to '現在' (Now) for various assessment items like A1, A2, A3, C1, C2, S1, S2, S3.



※ ルーブリックとは、評価の観点を縦軸に(アートマネジメントとソーシャルワーク[知識・理解・技能・経験等])、それぞれの観点における到達度を横軸に、学習の達成度を測する評価法

2023年度成果

ロジックモデルを構築し、MSC(Most Significant Change)を参考にした定性評価を実施。

- 受講生のAOP、ソーシャルアートの関心や関与を概して高めることができた。
○ 身近な現場で、受講前には思いつかなかったような新たな行動をはじめた、はじめようと思っている受講生が39%から78%に増加
○ 都市経営研究科含むアートマネジメント系大学院進学3名

必修プログラム

社会的課題をみつめる

持続可能性を考えるアートマネジメント

基礎講座

開催時期 7～8月

- ①「アートとジェンダー ～現場・データ・理論から～」
講師 小田原のどか (彫刻家、評論家)
- ②「芸術をめぐる労働・ジェンダー・ハラスメント
～自身のプロジェクトをみつめてみる～」
講師 竹田恵子 (東京外国語大学世界言語社会教育センター講師、EGSA JAPAN 代表)
- ③ AOPワークショップ「誰かのもやもやをうけとる
～AOPで“これまで”をふりかえる～」
講師 「アート/ケア/文化政策」研究会

- ④「Outside/Inside アプローチの課題 ～持続可能性へのみち～」
講師 中川眞 (大阪公立大学都市科学・防災研究センター特任教授)
- ⑤「企画・実施～地域に根差す新たなアートの胎動～」
講師 吉田隆之 (大阪公立大学大学院都市経営研究科准教授)
高岩みのり (ちょちょまうヴァナキュラー実行委員会・事務局、
一般社団法人 brk collective 理事、アートマネージャー)
- ⑥「文化事業の強みを生かす評価」
講師 中村美亜 (九州大学大学院芸術工学研究院教授)
- ⑦「アーカイブ～プロジェクトのためのアーカイブ実践～」
講師 山口祥平 (大分県立芸術文化短期大学准教授)

ゼミナール

開催時期 8～10月 (全4コマ)

- 「環境共生とまちづくり」
講師 除本理史 (大阪公立大学大学院経営学研究科グローバルビジネス専攻教授)
藤江徹 (公益財団法人公害地域再生センター・おおぞら財団事務局長)
- 「性の多様性」
講師 長村さと子 (一般社団法人こどもまっふ代表理事)
茂田まみこ (一般社団法人こどもまっふスタッフ)
新ヶ江章友 (大阪公立大学大学院都市経営研究科、人権問題研究センター教授)

- 「地域共生と財源論」
講師 水上啓吾 (大阪公立大学大学院都市経営研究科准教授)
上田假奈代 (詩人、NPO 法人コクルーム代表理事)
- 「AOP～いつも抱えている『もやもや』をベースに声をあげる練習
をしてみる～」
講師 「アート/ケア/文化政策」研究会
中川眞 (大阪公立大学都市科学、防災研究センター特任教授)

選択プログラム

実践・場づくり

「公害から環境共生～『困難な過去』を見つめていく
ためのアートプログラム～」

公益財団法人公害地域再生センター・おおぞら財団

開催時期 7月～11月 (全10コマ)

会場 大阪市西淀川区

コーディネーター 松岡咲子 (アートコーディネーター、女優)

アーティスト 村田のぞみ (アーティスト)

「再チャレンジと表現～釜ヶ崎における協働の自立
支援表現プログラム～」

NPO 法人コクルーム・釜ヶ崎芸術大学

開催時期 10月～1月 (全10コマ)

会場 NPO 法人コクルーム・釜ヶ崎芸術大学、あいりん
臨時夜間緊急避難所(シェルター)(大阪市西成区)

コーディネーター 上田 假奈代 (詩人、NPO 法人コクルーム代表理事)

アーティスト 永井玲衣 (哲学者)

華雪 (書・篆刻)

野村誠 (作曲家)

「多文化共生～外国人ルーツを持つ子どもたちへの
音楽プログラム～」

NPO 法人トッカビ

開催時期 8月～9月 (全6コマ)

会場 NPO 法人トッカビ ほか(大阪府八尾市)

コーディネーター 朴洋幸 (NPO 法人トッカビ代表理事)

アーティスト M集会 (アーティスト)

通期プログラム

EJ Café

ファシリテーター 久保田テツ (NPO remo[記録と表現とメディアのための組織]
代表理事)

服部俊子 (大阪公立大学大学院都市経営研究科教授)

評価

コーディネーター

熊谷薫 (合同会社 ARTLOGY 代表、東海大学広報メディア学科講師)

石幡愛 (アートマネージャー、リサーチャー)

大澤望 (一般社団法人インパクト・マネジメント・ラボ共同代表、株式会社
大沢会計&人事コンサルタンツ東京事務所所長)

川野辺雪菜 (フリーランスフェンドレイザー)

アーカイブ

コーディネーター

金崎亮太 (株式会社アートマネジメント代表取締役)

アドバイザー

山口祥平 (大分県立芸術文化短期大学准教授)

ブックレット

コーディネーター

仲村健太郎 (Studio Kentaro Nakamura)

将来展望

- アートを媒介に公平・正義に取り組むプロフェッショナルマネジメント人材が育つ
- 各プロジェクトが持続可能になり、大阪をはじめとする都市の社会的課題の解決をめざす
- 持続可能なネットワーク、プラットフォームの構築
 - ・職業実践育成プログラム (BP) の認定
 - ・本プログラムを発展継承させるために、都市経営研究科社会人大学院での認定制度を活用する。
 - ・Center for Social Work & Arts の開設 (実務支援と相談窓口)

